

平成 28 年度 第 2 回高知県歯と口の健康づくり推進協議会 議事録要旨

1. 【日時】平成 28 年 12 月 8 日（木）19：00～20：55
2. 【場所】高知県歯科医師会館 会議室 1
3. 【出席者】推進協議会委員 12 名、代理出席 1 名（7 名欠席）
事務局 5 名

4. 審議事項

- (1) 第 2 期歯と口の健康づくり基本計画について
- (2) 災害歯科保健医療対策活動指針について
- (3) その他(平成 28 年度の取組経過)
 - ①むし歯予防対策
 - ②歯周病予防対策
 - ③高齢者等の歯科保健医療対策

5. 議事の経過の概要および結果

(1) 議題の審議

議長の議事進行により、各議題について事務局の説明を受け、審議が行われた。

「議題（1）第 2 期歯と口の健康づくり基本計画について」

事務局から第 2 期歯と口の健康づくり基本計画（案）について説明。

- 第 2 期から新たな目標値である「20 歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合」について、事務局案として 70%を提案、承認。
- 「80 歳で自分の歯を 20 本以上有する人の割合」が直近値（H27）59.3%で目標値が 60%では、目標が低くないか。
- データ推移による類推では、60%である。
- 全国は 40%程度で高知の現状値が高いのではないかと。バイアスがかかっていないか。
- 歯科診療所のデータをいただき、徳島大学で解析していただいた。
- 歯科診療所のデータなので、意識が高い人が対象になっているということは考えられる。
- 現在の 80 歳以上の人は難しいが先の目標値とするならいい。
- データ推移による目標値とはどういうことか。頑張った数字の方がいいのではないか。
- 達成の可能性と、国の目標値を参考としている。今まで目標達成のため頑張ってきて、これまでともう一段達成に向けて取組をすすめることを想定し、第 2 期の目標値とした。
- 妊婦歯科健診を始めたので、受診率等を目標値に設定してはどうか。

- 妊婦歯科健診事業は平成 30 年度までの 3 か年の事業としているので、事業自体の目標値は設定しているが、今回の計画では項目はあげていない。
- 妊婦歯科健診受診数は、8 月 0 人、9 月 5 人、10 月 31 人。年間出生数 5,000 人。今後産婦人科医会と連携し、周知していく。

「議題(2) 災害歯科保健医療対策活動指針について」

事務局から災害時歯科保健医療対策活動指針（案）について説明。来年 3 月には指針案を承認いただき、平成 29 年度に製本し、南海トラフ災害本部会議で指針の位置付けを説明し、医療救護計画で災害歯科コーディネーターを位置付ける。

- 各地区の孤立が予想される。歯科医師の数は多くなく、小さい地区では歯科医師が 20 名程度しかおらず、各地区には災害歯科コーディネーターを置いていない。
- 歯科医療が必要な人の想定はしているか。
- 医療の場合は、急性期だけが人、死者数を県全体及び各地区の想定に対して、災害拠点病院、救護病院、医療救護所を配置し、医師を置き、命を助けるため組み立てている。歯科の場合は、口腔外科は高知大学医学部附属病院、高知医療センターに担っていただき、避難所での口腔ケアや口腔機能維持の役割も大きい。

被災後、診療所で診療できる場合は、その場で行っていただき診療ができない場合は避難所で活動していただきたい。

- 安否確認について、県警察本部とデンタルチャートについて協議し、生前のカルテのデータ化が重要ではないかと議論になっている。
- 熊本地震で介護支援専門員が避難所や地域を巡回し、民生委員と心身状態を把握し、県と地域包括支援センターと情報を共有していた。高知県においても情報共有の体制化をしていただきたい。現状では市町村や地域包括支援センターで情報が止まってしまうのではないかと懸念される。
- 歯科のデータは、身元確認だけではなく、生きている方の情報もあればその方の治療も進むので、県の方でも情報化について検討していただきたい。
- 医療は市町村が入ってくるが、歯科でも市町村の役割をもう少し明らかにしていただきたい。
- 身元確認については、県内の歯科医師は 500 人程度しかいないので、県外の支援者をお願いしたいと考えている。

「議題(3) その他(平成 28 年度の取組経過)」

事務局から、むし歯予防対策、歯周病予防対策、高齢者等の歯科保健医療対策の

進捗状況について説明。

- フッ化物洗口について高知県小中学校長会として高知市教委、養護教諭等を交えて協議でき早速動いていただき助かっている。
- むし歯がなくなって歯医者が困るということは無いので、今後もフッ化物洗口について進めていく。
- 高知市保健所の口腔保健支援センターでフッ化物洗口反対派に向けて説明するためのQ & Aを市、市教委、市歯科医師会と作成予定。
- 小学校給食後の歯みがきの実施率について、愛媛県（松山市）100%、香川県96.3%、徳島県68.2%、（過半数含むと90.3%）高知県（高知市）14.6%。
- 教育委員会と連携し、フッ化物洗口だけではなく生活習慣の一環としてブラッシングの定着も進めていく。
- 昼食後の歯磨きの重要性について、保護者の認識はあまりないのではないか。
- 昼間のブラッシングの重要性は生活習慣での位置付けが目的であり、今後も周知していく。

6. 閉会

以上をもって議事全部を終了した。